2011年早春

124期生の5名の生徒と2人の教師が、新たな出会いを求めてシアトルに向け旅立ちました。

この小冊子は、その記録です。

①KENTWOOD,KENTLAKE高校滞在記（生徒編）

(1) I love you all !!!　　3年　H.A

(2) Thanks, America !　　3年　H.A.

(3) I love America　　3年　S.Y.

(4) サブカルで繋がる友達の輪　　3年　F.T.

(5) Peace Out, My Favorite America !
3年　M.M.

②KENTWOOD、KENTLAKE高校滞在記（教員編）

(1)KENTWOOD高校編

（2011年3月20日（日）～3月28日（月））

英語科　松山知紘　教諭

(2)KENTLAKE高校編

（2011年3月27日（日）～4月3日（日））

英語科　坂口美樹　教諭

「I love you all !!!」

3年　　H.H.

私にとってシアトルで過ごした2週間は今まで生きてきた中で最高の2週間です。毎日が驚きの連続で毎日が印象的で全部書きたいけれど書ききれません。とりあえず、ほんとうに楽しかった！ということを伝えておきます。

まず一週目について、私のホストはMelindaという歌がかなり上手い女の子でした。日本語は全然話せなかったけれど、分かりやすい英語で話してくれたり、携帯で画像を見せたりしてくれて、辞書さえあれば会話が成り立ちました。

ちなみに、ケントウッド高校はきれいで、広くて、北野以上に迷路でした。広いのはアメリカの何においても共通します。トイレも開放感にあふれています！私の二人のホストの家も両方ともきれいで広くて、私の部屋もホテルの一室のようでした。

生徒のみんなは親切でフレンドリーでした。日本語クラスの子たちは「お昼一緒に食べよう！」と誘ってくれたり、校内ですれ違うたびに〝Aino!”と声をかけてくれたりしてとても嬉しかったです。日本語クラスでない子たちも「コンニチワ！」とあいさつしてくれたり、なによりみんな目が合うとニコッとしてくれます。また、休み時間に次の授業の教室の場所が分からず、近くにいた子に尋ねると、その子も次の教室に移動しなくてはいけないのにわざわざ教室まで送ってくれました。

私たちは一日目以外ほとんど自分のホストにはついて行かず、自分たちの行きたい授業を受けました。アメリカの授業は自分で受ける授業を選べるからなのか本格的で実用的で本当に自分の役に立ちそうでした。例えば車の修理の授業や、演劇の授業です。もものホストであるAmandaについて演劇の授業を見に行ったときはその演技力に驚きました。そしてクラスのみんながとても熱心に授業に取り組んでいました。

本格的といえば、一週目の放課後はホストたちが仲良く、私たちを気遣ってか毎日一緒に遊ぶように計画してくれたのですが、いろいろなゲームも本格的でした。ゴーカートは日本のものとは比べものにならないくらいリアルで、最初は怖かったけれど慣れるともう一度やりたい！と思うくらいでした。また、レーザータッグというレーザーが出る銃を持ち、レーザーが当たると振動するベストを装着し、薄暗い迷路のようなところで大人子供関係なく20人くらいで打ち合うゲームをしました。これは銃OKの国だからか、妙にリアルで本当に怖かったです。追いかけられたり、挟み撃ちにされたり・・・私は二度としたくないです。そして、ゲーム以外にはショッピングに行ったり、カラオケに行ったり、世界一辛いチキンを食べたり(私は食べてないけれど)しました。AmandaとMがMelindaの家に来

て一緒にご飯を食べたりもしました。そのとき、ケントで流行っているスラングを教えてもらいました。食べ過ぎたときは ″I have a food baby.” と言うそうです。

一週目最後の放課後は3校合同でやるCBF(Cherry Blossom Festival)でした。私たちは阿武野高校と合同でAKB48の「会いたかった」を踊りました。客席の人たちは予想以上に盛り上がってくれてとても気持ち良かったです。また私たちの他にも出演者がたくさんおり、Melindaもアンジェラ・アキを歌っていて、日本の歌なのにそこらの日本人より上手くて感動しました。

そして2週目、私のホストはAlisaという可愛くて勉強もスポーツも音楽もできる女の子でした。Alisaとは2歳離れているけれど食べ物の好き嫌いが同じだったり、漫画好きだったりと共通点が多く、すぐ仲良くなれました。また、Alisaのお姉ちゃんTia とも仲良くなれました。Tiaは昨年北野に来ていますが、大人っぽくてとても美人です！同い年ということが信じられません。というか信じたくない！Alisaはいつも日本語で話そうと努力してくれて私といるときはいつも分厚い日本語の辞書を持ち歩いてくれました。それがなんだかとてもうれしかったです。

ケントレイク高校の広さや授業はだいたいケントウッド高校と同じでしたがcookingクラスで作った本格的なスープの味や、陶芸クラスで体験した「ろくろ回し」のあまりの難しさがとても印象的です。また、昼休みに一度だけやった生徒たちの名前を漢字の当て字で書くのはとても面白かったです。「〇〇〇ティー」という名前が難しくて、「ティー」はすべて「茶」と書いていました。先生たちも来て、その人は校長じゃないのに「校長」と書いて！と言うので書くと、うれしそうに受け取って自分の部屋のドアに貼っていました。みんな校長の座を狙っているのかな!？

2週目は放課後みんなで遊ぶということはほとんどできず、Alisaとショッピングが多かったです。Alisaとずっと一緒にいたのでお別れはとても悲しくてしかたがありませんでした。そして日本に帰ってきてまず思ったことは、日本の食べ物がおいしいということです。アメリカの食べ物はとりあえず甘くて多い！でもピザはアメリカのほうがおいしいです。学校での昼食は制服パスで食べ放題飲み放題だったのでなんか気持ちよかったです。そして私はいまだにケントシックが続いています。でも、アメリカにいるときは一度もホームシックになりませんでした。ライスシックにはなったけれど。

出発前、私は英語が聞き取れるか、伝えたいことが伝えられるかということがとても不安でした。しかし、その不安があったからこそ気付けたことがあります。それは伝えたいという強い気持ちがあれば時間はかかるけれど伝えられるということです。最終的には単

語を並べるだけでも伝わります。だから電子辞書はアメリカでは生活必需品でしたが、伝えられるかどうかを決めるのは私の伝えたいという気持ちでした。ただ悲しかったのはせっかく頭の中で疑問文を考えて言ったのに伝わらず、それを肯定文に変えて語尾を上げたら伝わったときです。でもアメリカで一番悲しかったことは、CBFで背の高～い15歳の子に自己紹介したら「17歳？10歳にしか見えない！」と思いっきり言われたことです。かなりショックでした。

最後に、私はこの2週間で自分の英語力の無さを痛感しました。しかしMelinda, Alisaをはじめ、アメリカにたくさんの友達ができたこと、そして、Mさん、Aさん、Yくん、Hくんという素晴らしい仲間ができたことで、英語がもっと話せるようになりたい！勉強を頑張ろう！という気持ちが強くなりました。私はこの国際交流を支えてくださったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです！

Thanks, America !

3年　　H.A.

12月、ケントの抽選を当てた。今までにくじ運が良かった覚えもなかったので本当に驚いた。初めての海外、ホームステイ。アメリカの学校に通学。出発前からどんな世界が待っているのか楽しみでいっぱいだった。

10時間のフライトを経て、空港では1週目のホスト、Annaが出迎えてくれた。Annaは歌が上手なかわいい女の子だった。Momもとても優しくて、いつも私を気遣ってくれた。Space Nee-dleやPike Place Marketなどシアトルの有名な観光スポットにも連れて行ってもらった。1週目最後の日には紙袋一杯のお土産と一緒に1週間分の写真が詰まったフォトアルバムを貰って、思わず泣いてしまった。

1週目はKentWood高校に通い、最初全クラスに自己紹介やプレゼンをして、後は毎日聞いてみたい授業をまわった。吹奏楽、オケ、彫刻、演劇など日本ではない授業ばかりで、あまり"高校"という感じがせず、それがとても気に入った。最初びっくりしたことの1つは、授業中飲食ＯＫであるということだった。食べきれなかったお昼ごはんを食べながら授業を聞くのは、慌ただしい北野での早弁とは全く違っていて不思議な感じがした。どの授業も生徒の発言や質問がかなり自由で、日本とは全く違う学校生活だった。毎日色んな人に話しかけて、毎日新しい友達が出来た。日本語クラスにいることが結構あったが、みんな喋りやすくて楽しい子ばかりだった。毎朝日本語クラスに集合して、授業を受け終わ

ると日本語クラスに帰って来る、というのが習慣になってくると、日本語クラスは居心地のいい第二のhomeのような存在になっていった。放課後はホストのみんなにいろんなところに連れて行ってもらった。West fieldで買い物したりMelindaのお店SALAに行ったり。ゲームセンターではゴルフしたり、ゴーカートでぶつけまくったり、シューティングでスカッとしたり、とにかく楽しかった。WING DOMEには阿武野のメンバーも一緒に行って盛り上がった。世界一辛い唐辛子とかいう激辛チキンを食べて、本当に辛かった。もはやチキンでは無く唐辛子。でもすごく貴重な体験だったと思う。Cherry Blossom Festivalという日本のお祭りでは阿武野メンバーと合同で練習したAKB 48の「会いたかった」を踊った。観客のみんなはまさにアメリカのノリ。舞台のホールもブースも人がいっぱいで、アメリカで日本の文化のお祭りがとても盛り上がっていることが嬉しかった。他にもカラオケ、シューティング。Daniel行きつけの韓国料理屋さんにも行った。毎日が楽しくて、1日1日がすごく大切に思えた。みんなで行ったところでの思い出は数えきれない。小さなことでも馬鹿みたいに楽しかった。どのホストも優しくて、ホストとも北野メンバーとも日に日に仲良くなった。ホスト交換の日は涙が止まらなかった。

次のホストはおしゃれが大好きな日本人ハーフのKiannaだった。初日からネイルしてもらったり、一緒にケーキを作ったり、映画を見たりした。去年3週間日本人のホストを受け入れていたのもあってか、家族のみんなもゆっくり喋ってくれてとても話しやすかった。Kiannaとは移動の車の中でも話は尽きなくて、専らガールズトークで盛り上がり、本当に仲良くなった。一緒に買い物をした時なんかは、試着室でポーズをとって大爆笑した。パパとママがラブラブでほんとに理想の夫婦。毎日いとこのJamesはじめ親戚が家に来て、いつもにぎやかで素敵な家族だった。帰る日の前日には2週目のホストみんなでボーリングに行って、そのままKianna と「今晩はオールだ！」とか盛り上がっておきながら、映画を見たまま3:00ごろ2人とも爆睡してしまったことも想い出に残っている。

KentLake高校はWoodよりやんちゃな雰囲気だったように思う。ダンスの授業がすごく楽しくて、家に帰ってもKiannaと練習した。料理の授業では実習にも参加させてもらった。

KentWoodと同様実習のスケールが大きくて、マーケティングの授業では実際に仕入れや販売をしていたし、車の整備の授業は実際の車を使っていた。阿武野メンバーや1週目のホストも来てパーティが開かれたこともあった。

12月の抽選で当たりをひいた私は本当に幸運だった。この本当に濃い2週間で、たくさんの大切な出会いがあった。アメリカでみんなと過ごした2週間は私にとっての宝物。ホストファミリーはじめみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。アメリカ大好き！みんな大好き！絶対にまたみんなに会いに行きます。ありがとうございました。

I love America

3年　　S.Y.

　アメリカで過ごした2週間はとても新鮮で貴重な体験でした。去年、ホストをした時からアメリカに行きたいと思っていましたが、そのことが実現するとは夢にも思っていませんでした。

　約11時間のフライトを経て、シアトルに到着しました。飛行機を降りた時は平然としたふりをしていましたが、これまでにないくらい興奮していました。空港では荷物チェックでトラブルがありドキドキした入国でしたが、今思えばおもしろい体験でした。空港を出るとすぐに出迎えてくれたのは最初のホストであるダニエルでした(彼は去年、北野に来ているので記憶にある人も少なくないでしょう。自己紹介の時にカメラを構えた彼です。)。　ご両親ともに韓国人であまり英語が話せないうえに、2人でコンビニを経営されていたためほとんど会う機会がなかったけれど、とてもやさしくしていただきました。ダニエルはとても優しく頼りになるみんなの兄貴的存在でした。また、とても日本語がうまく(日本語クラスの先生よりも)、いつも彼の日本語に頼りすぎていたと反省しています。そして、彼は車の運転ができました。初め助手席に座るのが怖くてしかたがなかったです。初日は眠たい中、シアトルの観光をしました。日本でも有名なスターバックスの1号店や、壁一面に噛み終わったガムが貼り付けられているガムウォールにいきました。夜はダニエルと同じ部屋で寝ていたため、話が尽きず夜中の3時まで話す日もあり、最終的にダニエルは「ゆうやと居たら寝られない」と言ってリビングで寝ていました。2日目からはダニエルの通うケントウッド高校に通いました。ダニエルには0時間目の授業があり、6時40分から始まるので起きるのが大変でした。ケントウッド高校では心理学や経済学、陶芸、オーケストラ、演劇といった日本では受けることのできない授業をたくさん受けました(気づいたら電子辞書が生活必需品となっていました。)。　校内ではいろんな人が話しかけてくれてとてもうれしかったです(僕の英語がうまくないのにも関わらずしっかり聞いてくれたことには感謝しています。)。　そして、日本語クラスではひとりひとりが日本の文化についてプレゼンテーションをしました。とても緊張していて噛んでばかりだったけれど、みんなの聞く態度がよいので助けられました。最初の1週間はショッピングやゲームセンター、カラオケ、レーザータッグ(シューティングゲームのようなもの)、市長訪問、世界一辛いソースを使ったチキンを食べるなど毎日さまざまなイベントがありました。チ

キンを食べる前は辛さへの恐怖から顔が真っ青でまともに会話もできませんでした。完食した後にダニエルに「誇りに思う」と日本語で言われた時は「あぁ、食べられたんだ」という安堵の気持ちで涙がとまりませんでした。正直、あれは食べ物じゃないですね。とくに印象に残っているのはチェリーブロッサムフェスティバルというお祭りです。僕達は一緒に行った阿武野高校の人とＡＫＢ48の「会いたかった」を踊りました。日本にいるときからみんなで集まって練習していたけれど、本番となるととても緊張しました。また、ステージで踊るのはとても恥ずかしかったけれど、意外に盛り上がっていたのでよかったです。ただ、尋常ではないくらいの汗をかいていました。そのお祭りで去年僕がホストをしたショーンやおととし日本にきたコリーと感動的な再会ができました。そんな楽しい1週間はすぐに過ぎてしまい、ホストチェンジの日を迎えました。

2軒目のホストはカイルという中国人と日本人のハーフでした。お母さんは日本人でしたがアメリカ生まれアメリカ育ちのため日本語はまったくでした。1軒目のダニエルとは違い日本語がほとんど伝わらず、常に英語での会話でした。あまり英語が得意でない僕は四苦八苦しながらなんとか自分の思いを伝えました。ご両親はとても優しくいつも僕のことを1番に考えてくれました。カイルの家ではたまに米を食べるらしく、毎日僕のためにご飯を用意してくれました。カイルは楽器が大好きで、家にはピアノ、ギター、ベース、サックスなどいろいろな楽器がありました。家の中では話すことがほとんどなく、困った時は2人で「マリオカート」をしたり、映画を見て時間をつぶしました。むろん映画はすべて英語で字幕もなかったので、ほとんど寝ていたので記憶がありません。2週目はカイルの通うケントレイク高校に通いました。カイルもまた0時間目から授業があり大変でした。レイクはウッドとは雰囲気が違ってなじむのに少し時間がかかったため、ウッドに戻りたいと思うことがしばしばありました。去年の体験記にも書いてあった、いわゆるウッドシックです。学校では、日本でも使ったことのないろくろをつかってどんぶりを作ったり、ダンスの授業でみんなと踊ったり、パーティーをしたりととても楽しい時間をすごすことができました。食べ物のことにほとんどふれていなかったのでここで少し書きたいと思います。アメリカの食べ物は想像していたとおり大きく、全部食べるのには一苦労でした。驚いたことに向こうの人も食べきれずに捨てている人が少なくありませんでした。また、チョコレートパスタやピーマンゼリーといった変わった食べ物にも出会いました(日本にもあるのかもしれませんが)。

話を戻しますが、2週目は1週目とは違ってほとんど家にいることが多かったため、学校で北野の生徒を見るとお互いに引きつけられるように集まり延々と日本語で会話をしていました。ホストの子は少しさびしく思ったかもしれませんね。反省しています。どちらか

というと穏やかに過ごした2週目でした。

そしてアメリカ最後の日、空港には両方のホストとその家族の人が見送りにきてくれました。あまりにも楽しく、充実した2週間だったので、別れがつらくて、感謝の気持ちを伝えたくても涙をがまんするのが精いっぱいで言葉になりませんでした。ものすごく悲しく感じましたが、飛行機に乗るとなんだかすがすがしい気持ちになりました。飛行機のなかでは11時間連続で大富豪をやるという意味のわからない記録を樹立しました。

最後ですが、このプログラムに携わってくださった先生方、ホストのみなさま方、デルタ航空の方々に心より感謝しています。ありがとうございました。

サブカルで繋がる友達の輪

3年　　F.T.

偶然くじ引きで当たった、異文化ふれあいの旅特急券。神のご加護か何かで行くことができたアメリカでの生活は、期待以上の出来事の連続でした。

旅の1ヶ月前、1人目のホストファミリーが決まりました。1歳年下のColin(以下コリン君)です。メールで彼の顔写真とプロフィールが送られてきたのですが、なんと驚いたことにコリン君は私と同じオタク属性だというのです。好きな音楽はAKB48と FUNKY MONKEY BABYS、そして大好きな物は日本のアニメ。ファンモンこそあまり聞かないものの、他に関しては趣味の守備範囲があまりにも一致し、様々な意味でこれは運命だと思いました。旅の前、彼とはメールを数件やりとりしました。慣れない英文メールに四苦八苦し、「そっちの学校はどんなん？何のアニメが好き？」こんな些細な内容でさえ30分も費やしたことを覚えています。

そして出発まで1週間と迫ったとき、ようやく2人目のホストが決定。これまた1歳年下のMatthew通称Matt(以下マット君)です。ほんとにどこまで驚けばよいのでしょうか、彼もまた例の趣味をお持ちだったのです。しかも彼の場合は筋金入りで、「家でいるときは、ゲームとパソコンに何よりも時間を費やしているよ！！ボクはアニメクラブとゲームクラブの部長だよ！！」ということがプロフィールに書かれていました。結局、残り時間が1週間少なかったもので、マット君とはメールはほとんどやりとりができませんでした。けれども、ホストがまさかのオタクという事態に、「何をお土産に持って行こうか、何を話そうか」と期待がふくらみ続けました。

ついに迎えた出発の日。あまりにワクワクしていたのでしょうか、直行便による11時間ものフライトは一瞬でした。空港ではコリン君、弟で11歳のLiam(リアム君)、そしてパパ

さんが迎えてくださり、他のホストと一緒に、港に面した繁華街シアトルへ。2時間弱の車での移動で到着したのですが、シアトルはテレビで見たことのあるアメリカのダウンタウンの風景そのもの。ミュージカルシアターに、キャンディーショップ、路面を走るバスに急勾配の大通り。港に出れば、巨大老舗マーケットにチーズ屋さん、そしてスタバの1号店までがありました。嬉しがりであり田舎者である私は真新しいものの写真を撮りまくり、スタバでは1号店特製ボトルを購入。見る物全てが新しく刺激が強すぎたせいか、しばらくは夢のような心地で地に足がつかないような感覚でした。そんな私にアメリカに本当に来たのだという実感を与えてくれたのは、コリン君と行ったとあるお店でした。こんなところにまであるのか、とビックリ。マンガ屋があったのです。ヒーロー系のアメリカンコミック(通称アメコミ)から、NARUTOやワンピースの英語版など、まるで秋葉原かどこかの専門店に訪れた感覚でした。「異国アメリカは現実離れしたところ」という漠然としたイメージがあったのですが、アメリカは全くの知らない世界ではなく、むしろよく知っているような日常が流れていて親近感が沸きました。また、コリン君の家での食事はどれもヘルシーで、脂っこいものが全くでなかったことに驚きました。アメリカの食事はまずい、でかい、脂っこいというイメージだったので、私にとっては逆に新鮮でさえありました。

次の日から1週間通うことになったケントウッド高校。そこは一言で表すと、まさにフリーダム！！といった印象を受けました。授業では飲み物もキャンディもガムもOK、授業中は先生がジョーク全開、誕生日の人のバッグにはプレゼントされた風船の山。授業にしっかり出て、提出物さえだしておけば、単位が修得できて何でもアリなのです。いちばん印象的だったのは、大学生の範囲を取り扱った経済学の授業で、どの生徒もかなり熱心だったのをよくおぼえています。私がわからなさそうにしている専門用語を親切に教えてくれた1年上の方は、ジョークをぶっとばしまくって授業の盛り上げ役をしつつ、先生の質問には誰よりも早く、しかも的確に答えるクラスのヒーロー。また、先生は先生で、私に対して「あなたそんな熱心に板書をとっているなんて明日のテスト受けてくれるのかしら？」と笑顔でアメリカンジョーク。アカデミックなレベルも笑いのセンスも最高の授業でした。

さて今回、私たち北野メンバーは2つの出し物を用意しました。一つ目は、ケント高校での日本語クラスで発表する「日本文化についてのプレゼン」です。私と言えばオタク、オタクといえば秋葉原ということで、秋葉原を軸に日本のアニメ・マンガ文化のプレゼンを用意しました。AKBやアニメソングの楽曲に、大量の画像を使用したプレゼンはアメリカのオタクのみなさんの心を掴んだようで、想像を絶するほど大ウケでした。このプレゼ

ンを通してたくさんのオタ友ができたことを、色んな意味で誇りに思っています。もう一つの出し物は、同じ交換留学プログラムメンバーの阿武野高校のみなさんと一緒に踊った「会いたかった／AKB48」です。ヤンキーのにいちゃんやジョギングのおばちゃんが通る河川敷で恥ずかしい思いをしながら練習を重ねただけあり、500人を前にした文化祭でのダンスは恥じらいなく楽しく踊ることができました。唯一残念だった点は、スカートなるものをはかされたことでしたが。

1週間は一瞬で過ぎ去り、2週目のホスト、ケントレイク高校のマット君のもとへ。その直前、一日前のお出かけで携帯を無くしたことに気づき、大慌て。ホストの皆さんに多大な迷惑をおかけし、申し訳なく思っています。悲しいことに結局携帯は見つからず、さらに疲れがたまっていたのでしょうか、ホストチェンジ2日目にして体調を崩してしまいました。何も喉を通らず、帰ってはかると体重は3キロもやせてしまうくらいげっそりでした。そんなふがいない私に、マット君始めホストファミリーはすごく優しく看病してくださいました。夜中にのぞきにきては水を替えてくれて、また、流動食を探して買ってきてくれました。メンバーのHさんに薬を大量にいただき、なんとか1日で回復することができ、残りの学校生活を目いっぱい楽しむことができました。将来の夢の一候補としての心理学を、学校で授業として学ぶことができました。

もちろん、専門用語で溢れた授業は、英語が速すぎたために資料の絵や図からしか内容を推し量ることしかできませんでしたが、日本の高校の教育課程で学べない内容の片鱗を垣間見られただけでも貴重な経験だったと思います。また、マット君は一年下の学年だったので、一緒に着いていった数学の授業は理解することができました。英語があまりわからなくても数式は万国共通なので、北野高校で得た数学の知識をフル導入して一年上の先輩(笑)としてたどたどしい英語で向こうの生徒に教えました。特に、向こうの学校でいちばん印象に残ったのは、アニソンダンスだけで友達ができたことです。"Do you know Haruhi?" "Yeah, I know. I can dance the ending theme of the Anime." "Oh, I can too!!" "Shall we dance?" そんな不器用な会話を交わし、特技として踊れるアニソンのエンディングテーマを介して時間を共有。一曲踊り終わるころにはすでに仲良し。このダンスだけで6人くらいは友達をつくったのではないでしょうか。オタクでよかった、と切に思った経験でした。

私がこの派遣プログラムを通じて特に感じたのは、アメリカと日本の文化の違いでした。たとえばまず、男の子達がものすごく大人でエスコートしまくりでした。男子は年の割にすごくクールな方が多いのですが、クラス活動などではさりげなくレディファースト。女子は女子で日本のように陰口を言わず、嫌なことやいいたいことがあれば正面からぶつか

ります。だれもが積極的で、お互いを尊敬しあう。それはホストファミリーのご夫婦の間でも同様でした。お父さんが忙しいときには、代わりに車で息子さんたちを学校まで送り、逆にお母さんが疲れているときには「今日は俺がつくるよ」と料理の腕をふるう。都市部から少し離れた郊外の2つの高校、ケントウッド高校とケントレイク高校。ここで出会い、経験したことは現代の日本人が忘れてしまっているような大切なことだと感じました。ケントでたくさん友達をつくり、将来役立ちそうな教訓や生き方を知ることができ、本当に貴重な経験ができたと確信しています。これからは英語、特にリスニングやスピーキング面の訓練をして、もっと話せるようにますます精進しようと思います。そして、ケントでできた友達の多くが進学するワシントン大学に、ショートステイなどの機会があれば、もう一度、ぜひ訪れてみたいなと思います。

Peace Out, My Favorite America !

3年　　M.M

アメリカですごした2週間は本当にかけがえのないものでした。わたしは、こんなにすばらしい体験を可能にしてくれた人たちみんなにとてもとても感謝しています。

わたしは成績が悪くて、くじを引いた人の中にはわたしよりもはるかに成績がいい人がたくさんいたので、「くじで決めていいんかな～わたしなんかよりもっと成績のいい人が行った方がいいんちゃうかな～」と行く前は思っていたけれど、今では、成績もよくないし特にとりえもないようなわたしがアメリカに行くことを可能にしてくれたくじ引きというとてつもなく公平な制度にもとても感謝しています。

私たちは1週目にKentWood高校に通い、2週目にKentLake高校に通いました。KentWoodは北野高校の姉妹校で、KentLakeはわたしたちと一緒にアメリカに行った阿武野高校の姉妹校だそうです。生徒たちの雰囲気は違ったけれど、どちらもきれいでとても広い学校でした。

1週目のKentWoodのホストは、Amandaでした。去年の夏に北野に来たので覚えている人も多いと思います。彼女は、本当にすばらしい人です。頭がすごくよくてスタイルもいいかなりの美人なのにとてもおちゃらけていておもしろくて思いやりがあって、まわりにいる人みんなを惹きつけてしまうような人でした。Amandaの日本語が上手だったのでわたしが聞き取れなかったら訳したりしてくれてとても助かりました。YくんのホストのDaniel(彼も去年北野に来ていました)も日本語がぺらぺらだったのでみんなでいるとき、わたし

たち5人は結構日本語で話していました。

Amandaの運転で通っていたKentWood高校は校舎が迷路でした。わたしが方向音痴なせいもあるのでしょうが、ひとりで教室を出ると、同じ教室には戻れません。アメリカの高校はめずらしくておもしろそうな授業がいっぱいだったので、ホストが出席する授業だけでなく、わたしたちは自分の行きたい授業を受講させてもらっていました。私たちが校内で迷っていたら全然知らない人でも、道案内してくれたり、わざわざ連れていってくれたり、その上授業担当の先生にわたしたちがその授業を受けられるように交渉してくれたり、KentWoodの生徒の親切さにはすっごく感動しました。KentWoodの人たちには迷惑をかけたと思いますが、勇気を出して、片言のへたな英語で知らない人と交流して自分たちで動くこともすばらしい経験になったと思います。わたしたちは本当に自由にさせてもらいました。だから、アメリカからの留学生が北野に来たら、出来る限り自由に本人たちの好きな授業を受けられるようにして欲しいと思います。

1週目の放課後は毎日みんなで遊びに連れて行ってもらっていました。月曜日はみんなでショッピングモールに行った後、AさんのホストのMelindaの家でAmandaとその友達のMindyと5人で、MelindaとAmandaとMindyが作ってくれたパスタを食べました。MelindaとMindyは料理クラスを受講しているそうで、とてもおいしかったです。火曜日はコビントン市長を訪問した後、みんなでMelindaのご両親がやっているレストランに行きました。水曜日はみんなで、いわゆる“ゲーセン”に行きました。とても広くて、どちらかというと小さい遊園地と行ったほうがいいと思います。木曜日はCBF(Kent地区4校合同の日本語クラスのお祭り)のダンスのリハーサルをして恒例(？)の辛すぎるチキンを食べに行きました。HくんとYくんはがんばって1つ食べていたけれど、あれは食べ物ではありません。ただの唐辛子のかたまりです、金曜日はCBFでダンスを踊りました。最後の日もお昼からみんなで遊びに行きました。

1週間毎日みんなで過ごして、本当に毎日楽しくて、Amandaのことが大好きすぎて、KentWoodが大好きすぎて、ホスト交換はとても悲しかったです。わたしは一度もホームシックになったことがないけれど、2週目は水曜日くらいまでずっとWoodシックでした。交換なんかなかったらいいのにとずっと思っていたけれど、今考えてみるとライフスタイルの異なる2つの家庭で過ごせてよかったと思います。

2週目のKentLakeのホストはCourtneyでした。Courtneyはわたしがすこし咳をしただけでとても心配してくれる心優しい女の子でした。KentWoodの生徒は結構みんな自分で運転して学校に通っていたけれど、KentLakeの生徒は親に送り迎えしてもらっている人が多く、そのせいもあってか、放課後は家でCourtneyと過ごすことが多かったです。Courtneyも日

本語が少し話せるけど、Amanda程ではなかったのでわたしのむちゃくちゃな英語で話すことが多かったです。

Courtneyママが毎日送り迎えをしてくれたKentLakeは、KentWoodよりも覚えやすい校舎で、あまり迷子にならずに済みました。KentLakeで一番印象に残っている授業は陶芸の授業で、ろくろを回したことです。ろくろを回したことが印象的というよりは、ろくろの使い方を簡単に説明してあとは2時間放置、「自分たちでがんばれ～」みたいな感じの先生が印象的でした。車の整備の授業とかも見に行きました。調理実習はIHが導入されていてメニューも本格的で普通にお店で売れるくらいおいしかったです。

2週目はいっぱいショッピングに連れて行ってもらいました。洋服は普通に日本と同じくらいの値段だったけれど、食料品は同じくらいの値段でも大きさが2・3倍というのはざらでした。あと、「安～っ!」と思ったのは水着(アメリカのはほとんどビキニ)で、日本の4分の1、5分の1くらいの値段で売っていました。いろいろなショッピングモールに連れて行ってもらったけれど、わたしが一番好きだったのは普通のスーパーでした。ショッピングモールは日本と同じようなものが売ってる感じだったけど、スーパーはアメリカっぽいカラフルでかわいいものをいっぱい売っていてすごく楽しかったです(アメリカのものは全部大きいということをまったく考えずにあほみたいにいっぱい買ったので、帰りの荷物がかなり重たかったけど)。　スーパーに連れて行ってもらった日、Courtneyママに、「アメリカのスーパーは楽しい、日本のスーパーはつまらない」と言うと爆笑されました。たぶんアメリカ人的にはアメリカっぽいパッケージとか別にかわいくも何ともないのだと思います。

そんなこんなであっというまに2週間が過ぎてしまいました。とくに折り返してからの1週間はすぐに過ぎてしまいました。「帰りの空港でのお別れは悲しいかな～」と思っていたけれど意外と平気でした。わたしだけでなく、結構みんな平気そうでした。たぶんまた会えると信じているからだと思います。

わたしは、絶対日本から出ないと思っていたけれど、この体験を通じて、自分がアメリカの暮らしに向いていることに気づいた(食に関しては日本の食事のおいしさに気づいた)ので、大きくなったらアメリカに住もうと思います。来年も、再来年も、ずっとずっとこの国際交流が続いて、たくさんの後輩にこんなすばらしい体験をして欲しいと思います。

今年は、KentWoodからAさんのホストのMelindaとAさんのホストのAnna、KentLakeからHくんのホストのMattとYくんのホストのKyleが来る予定です。

Kentwood高校滞在記（2011年3月20日（日）～3月28日（月））

英語科　　松山知紘

2011年3月20日～27日の一週間、ケントウッド高校に滞在しました。東日本を襲った大地震からまだ一週間ほどしか経っておらず、地震の影響でフライトがキャンセルになったというニュースも耳に入ってきていたので、飛行機は大丈夫だろうか、本当に行けるのだろうかと少し心配していました（後で紹介する私のホストをしていただいたLouck先生からは「本当に来れるのか」とメールがきました）。しかし、予定通り旅立てることに胸をなでおろしました。私自身日付変更線を越えることも、アメリカへ行くことも初めてだったので、ワクワクしながら出発を迎えたのですが、当日、空港で顔を合わせた生徒たちは私以上に興奮していました。そのためか、飛行機の中でもずっと喋っていました（私は一人席が離れていたので、時差ボケを防ぐために大半の時間寝ていましたが）。今年はデルタ航空の関空－シアトルの直行便が復活していたので、途中で乗り換える必要もなく、長時間ながらも快適なフライトでした。そして同日（20日）の午前11時、予定通りにシアトル・タコマ国際空港に無事到着。税関の所で生徒2人と阿武野高校の先生がバックの中を調べられ、少し時間がかかりましたが、12時過ぎにホストと対面することができ、生徒たちはそれぞれのホストに連れられ空港を後にしました。さぁここからアメリカでの生活が始まります。

この滞在記では時系列ではなく、アメリカの学校の様子、派遣生の様子、私のホスト、そして一週目にあった2つの公式行事（市長訪問とCBF［チェリーブロッサム・フェスティバル］）の4つのテーマで、今回の滞在を紹介させていただきます。

①アメリカの学校の様子

KentWood高校は4学年の約2000人で、北野の2倍の生徒数です。こちらでは生徒が荷物を持って先生のいる教室に移動するので、廊下に各自のロッカーがあり、それを見るとついつい「あ～映画でよく見るアメリカの高校の雰囲気だ」と思ってしまいました。アメリカの学校の大きな特徴はとにかく朝が早いことです。一時間目は7時35分から始まります。選択授業によっては0時間目の科目もあり、それは何と6時半から始まります。初日は副校長と日本語クラス担当のMiyeun先生に学校を案内していただいて、色々な授業を見せていただきました。こちらでは生徒は自宅から一番近い高校に通うことになっているので、生徒のニーズは多様です。そのため様々な進路が実現できるよう幅広い科目が用意されています。日本の学校でも勉強する科目はもちろんのこと、日本ではあまり見られない授業が

数多く提供されていました。演劇や、コーラス、オーケストラ、ブラスバンド、写真、陶芸といった芸術系の授業や（全てクラブではなく、授業です！）、電気工学や木工、放送技術（自分たちで学内放送用のニュースを作るそうです）、カーリペア（教室に本物の車がありました）といった技術系の授業と本当に幅が広かったです。私は演劇、オーケストラ、英語（いわゆる日本でいう国語）、ESL（アメリカに移住してきた生徒向けの英語の授業）、陶芸、スペイン語の授業を見させていただきました。演劇の授業はオーストラリアにいる時に少し勉強したことがあったので日本では馴染みはありませんが、「やっぱり演劇って面白いな」と改めて感じました。KentWoodの先生方はどなたも気さくで、私たちが授業を見学しに行った際には必ず私たちの訪問のことに触れてくださいました。

初日に学校を案内してくださった副校長のアイーダ先生は案内の最中、授業中なのに廊下に座っている生徒がいると必ず声をかけ、授業に戻るよう促し、スカートが短い子や、校内でイヤホンをつけている生徒を見つけると、その場で注意をし、イヤホンを取り上げていました。アメリカは自由というイメージが私はあったので、そうした副校長先生の姿勢は意外に感じました。しかし、学校という場所はやはりそういった秩序を保つということも必要なので、ダメなものはダメと迷わず注意される副校長先生の姿勢には見習うところが多々ありました。シアトルでも東北の大震災は伝わっており、KentWoodの先生、生徒両方から「地震と津波の被害はどうだったんだ？あなたは大丈夫なのか？」とかなり声をかけていただきました。またKentWood高校に滞在中KentWoodの生徒が東北大震災のために千羽鶴を折って、日本への募金を呼びかけるイベントを行っていました。生徒自身がこのイベントを立ち上げており、日本のことをすごく気遣ってくれている彼らの善意を嬉しく思いました。

3日目は学校行事として保護者懇談がありました。どういう形で懇談をするかというと、何と体育館に全教員が椅子を持っていき、そこに保護者が来て懇談をします。しかも時間は15時から19時の間ならいつでも。間が空くこともあるので、自分のパソコンを持ってきたり、コンポを持ってきて音楽を流している先生もおられました（何と自由な）。そのため私はその日は15時から19時まで図書館で時間を潰すことになりました（それはそれで良かったのですが）。4日目のことですが、3限目の授業が始まってすぐにサイレンが鳴り出しました。「これは何だ」と思っているとどうやら抜き打ちの非難訓練のようで、生徒が一斉にグランドに向かって歩いていました（走ってはいませんでした。これでは抜き打ちでやる意味がないのでは？）。日本だとクラス単位で集合して担任が全員いるかを確認しますが、アメリカではどうするのだろうかと見ていると、先生方は全員アドバイザーとし

て15人ほどの生徒を4年間担当するらしく、その先生の元に集まって全員いるかを確認していました。生徒一人一人をきっちり見なければならないというところは日本もアメリカも同じなんだと思いました。

②派遣生の様子

シアトルに着いて次の日、生徒たちと朝の7時に日本語クラスの教室に集合したのですが、前日すでにホストと楽しい時間を過ごしていたみたいで皆これからの時間にワクワクしているようでした。学校1日目は日本語クラスで自己紹介をした後、小さいグループに分かれて日本語クラスの生徒たちと会話をしていたのですが、それを見ていて重大な問題に気づきました。何かというと、生徒たちが日本語クラスの生徒の言っている質問を聞き取れないのです。使っている単語は難しいものではないのですが、いかんせんスピードが速い。質問が何か分かれば、こちらの言いたいことを不完全な文でも伝える力は彼らにはあるのですが、その前段階となる質問を聞き取ることが難しいのです。ではどうすれば聞き取れるようになるのか。それはそのスピードの音声を聞くしかなく、量をこなして慣れることが必要です。日本では「英会話が大事だ」とか「話せる日本人をつくる」と“英語で話すことができるようになる”ということが今すごく強調されていますが、自分の言ったことに対して相手の答えていることが分からなければコミュニケーションをとっている、会話をしているということにはなりません。自分の言いたことはメモに書いたり、フレーズ集を見て暗記できます。でも聞き取ることは暗記ではできません。「話すことができる」前に「聞き取ることができる」ように、「話す力」という前にまずはリスニングの力をつけることが大事なのではと生徒の様子を見て考えさせられました。

初日から壁にぶつかった生徒たちですが、それにめげることなく自分から関わっていこうとする姿勢は1週間保ち続けていました。2日目は日本文化についてのプレゼンを行いました。生徒たちはシアトルに出発する前からパワーポイントのスライドを考えて準備しており、この日はずっと日本語教室にいて最低2回、多い人は3回発表しました。1回目は単語の発音が違っていたり、伝え方が良くなくて「ん？」と思うことがありましたが、慣れてきたせいか2回目はすごく良くなり、度胸もついてきた3回目はかなり満足のいくプレゼンになりました。まさに”Practice makes perfect”です。5人が発表したテーマ（折り紙、マンガ、着物、相撲、サブカルチャー）のどれに対しても日本語クラスの生徒たちは興味津々で聞いており、また、特にマンガに関しては詳しい生徒がとても多く、プレゼンへの反応がすごく良かったです。そういった意味でもこの日のプレゼンは彼らに大きな自信を与えたと思います。

今回KentWoodで北野の生徒のホストをやってくれた5人はとても仲が良く、放課後も皆で集まって10人でどこかへ遊びに行っていました。ホストとは出かけても、こうやってみんなで集まって出かけるというのは珍しいケースだと思います。そういった意味では生徒たちはとても幸運でした。ただこれが当たり前だと思ってしまうと、そうでない環境になった時に適応できなくなるので、「これが当たり前じゃないんだよ」と、2週目に向けて私が意識付けをすべきだったと反省しています。しかしながらKentWood高校での一週間、生徒は本当に一生懸命吸収できることは吸収しよう、発信できることは発信しようとしていました。KentWood高校での学校生活を通してたくさん得るものがあったと思います。

③ホストファミリー

私のホストをしていただいたのはKentWood高校で陶芸を教えておられるLouck（ラウク）先生でした。Louck先生はシアトルで行われている桜コン（アニメのコンベンション）の実行委員をするほど日本のアニメが大好きで、日本のアニメオタクに引けを取らないくらいアニメオタクです。新婚旅行も東京でアニメグッズの店に行ったり、声優やマンガ家と会ったりとアニメにまつわる旅行だったそうです。また家にはたくさんの日本のアニメのDVDがあり、それらを見せてくれるのですが、アニメに疎い私は全くついていくことができませんでした。Louck先生はアニメの他にギターやプラモデルも好きで、多趣味な方でした。Louck先生は2人お子さんがいらっしゃって（2歳半のLorrieちゃんと、1歳のWilliamくんです)、2人とも本当に可愛かったです（ブロンドで青い目の子どもだ！！と感激)。幸いにも私になついてくれたので、一週間楽しく遊び相手をしました。一週目は公式行事や保護者懇談もあったので、忙しくて観光をする時間もあまりなかったのですが、それでもLouck先生はできる限り私を色々なところへ連れて行ってくださいました。大きいショッピングモールやシアトル市内、スターバックスの1号店も行きました。せっかく日本から来たのだからできる限り楽しんでほしい－そういった思いがすごく伝わる、本当にホスピタリティのある方で、生徒の引率ながらも楽しい時間を過ごさせていただきました。

④公式行事（市長訪問とCBF［Cherry Blossom Festival:桜祭り]

一週目のKentWood高校滞在中は2つの大きな公式行事がありました。一つ目はKentWood高校があるCovington市の市長訪問です。3日目の放課後、市庁で阿武野高校の生徒と一緒に待ち合わせ。学校では英語漬けで疲れていたのか、阿武野高校の生徒と再会した生徒たちは少し元気になったみたいでした。全員集合してまずは市庁全体の案内を受けました。思っていたより狭く、日本の市役所のイメージとは大きく違っていました。その後議場に

通され少し市議会を見学。そして市長さんが私たちの名前を一人ひとり呼んで、国際交流の声明書を手渡して下さいました。日本からのこの訪問が国際交流として貴重な機会をもたらしているという内容の声明書の文章をどの生徒の時もきっちり読んでくださり、市長さんの敬意を感じました。またこちらの手土産の掛軸も非常に気に入ってくださり、ぜひこの議場に飾りたいとおっしゃってくれました。英語でおこなわれる議会もそうですし、市長さんに会えるということも滅多にないので、生徒にとって貴重な機会だったのではないでしょうか。

2つ目の大きな行事はCherry Blossom Festivalです。この祭りは日本の高校と国際交流をしているKent地区の4つの高校が持ち回りで開いているお祭りで、日本及びアジアのことを知ってもらうというのが趣旨です。どれほどの規模だろうかと思っていたのですが、5日目のお祭り当日、次々と人がやって来て、お祭りが始まる30分前にはメイン会場の食堂は人でいっぱいで身動きが取れないほど。こんなに人が来るほどの大きなイベントなんだと驚かされました。また全体のプログラムが始まる前に今年の会場校のKent Meridian高校の大きなホールで開会式があったのですが、ホールは人でいっぱい。私たちは壇上に上がり一人ひとり紹介を受けたのですが、たくさんの人を見て、Cherry Blossom FestivalがこのKent地区で大切なイベントであるという思いが伝わってきました。このお祭りのショーのプログラムの中で毎回北野高校と阿武野高校が合同でパフォーマンスをしています。北野と阿武野の生徒たちは今回ＡＫＢ48の曲を踊ったのですが、前日のリハーサルから好評で、本番も大盛り上がり。生徒たちはものすごい拍手喝采を受けて達成感を得ることができたと思います。またこのショーはKentの高校生もパフォーマンスをするのですが、バイオリンやピアノのソロあり、Ｋ－ＰＯＰのダンスあり、アンジェラアキのカラオケあり、日本のアニメのダンスあり（コスプレもばっちりでした）で、リハーサルの時点から大盛り上がり。本番の日はホールの通路に座り込む人がでるほどの大盛況で私もすごく楽しませてもらいました。食堂ではアジアンフードが売られていたのですが、こちらも大盛況でKentWood高校が用意した食べ物は全て売り切れました。大きな盛り上がりのなかCherry Blossom Festivalは無事終了。生徒とはこの日でお別れだったのですが、あっという間の一週間でした。

（終わりに）

1週間KentWood高校に滞在する中で、日本文化のプレゼンに対する反応やCherry Blossom Festivalでのパフォーマンスを見て、アメリカの高校生が日本やアジアにものすごく関心を持ってくれていることを本当にうれしく思いました。政治では日米の仲が悪く

なっているというようなことが言われていますが、そんなことはこの高校生たちには関係ありません。本当に日本のことが好きで、知りたいという思いが伝わってきました。Kent地区の高校生たちのこういった日本・アジアへの関心は絶対に途絶えさせてはいけないものです。生徒たちには自分たちが日本・アジアへの関心をさらに広げる役目を担っているということを、ぜひ心に留めておいてほしいし、自分たちもアメリカを含め日本以外の国に興味を持ってほしいと思います。お互いの国のことを英語で語り合う。そういう所から個人のつながりができ、草の根の国際交流が始まっていきます。そのつながりは自分が大きくなった時に必ずプラスの形で返ってきます。

またCherry Blossom Festivalでの売り上げはKent地区の国際交流の支援金のために使われています。なので、当日会場で各学校とも食事を少しでも売ろうと頑張っていました。当日本当にたくさんの人が来てくれたのは、日本の高校生との国際交流が多くのものをもたらすと考えられているからでしょう。だからこそCherry Blossom Festivalに来て、国際交流をサポートしてくれている。多くの人の善意と努力にこの国際交流は支えられているのだということを私自身感じましたし、生徒たちにも感謝の気持ちを持ってほしいと思います。このプログラムは今年で始まって20年になります。海外とのやりとりなので、負担は大きいですが、双方に実りある成果や意義をもたらしてくれています。だから、ぜひとも絶えることなくこれからも続けていければと考えています。

「若者が海外に出なくなっている」最近よくこのことを耳にします。それを聞くたびに「もったいないな」と残念に思います。異国の地で今まで出会ったことのない人たちと一緒に過ごすことで語学力の面だけでなく、人間的にも大きく成長することができますし、視野を大きく広げることができます。これは日本にいるだけでは得難いものです。わずか2週間ですが、多感な高校生の時期に海外の生活を体験し、派遣生はこのことを感じることができたのではないでしょうか。高校を卒業して大学生になってからで構いませんので、生徒たちにはとにかく一度海外に出てみてほしいと思っています。

最後にKentWood高校の先生方、ホストのLouck先生には本当にお世話になりました。今回の派遣にあたり色々と準備して下さった国際交流委員の先生方、ありがとうございました。そして担当の学年ではないのに引率することになった5人の派遣生。楽しい一週間を過ごすことができました。ありがとう。

Kentlake高校滞在記（2011年3月27日（日）～4月3日（日））

英語科　　坂口美樹

東日本大震災の直後である2011年3月27日～4月3日の1週間、ケントレイク高校で過ごした思い出を記しておこうと思います。

＊3月27日　～出会い～

9時間のフライト後、ダコマ空港に到着するも、迎えに来てくれているはずのホストファミリーが現れません。お互い顔も知らないし…場所を間違えているのかもしれないし？とそのまま待ってみることに。周囲は再会のハグ・kiss・涙の嵐。ドラマ以上に激しい感情表現。そんな風景に、もらい泣きしつつ、待つこと2時間以上。ステイ先も車じゃないと行けない場所だし、タクシーでどれくらいかかるのかも不明。電話しようとしても、わたしの携帯電話からは通じず、公衆電話も辺りに見つからず。さすがにあせってきたので、隣にいたお兄さんに場所確認するも、正しいとのこと。そのお兄さん、その後も震災のことをはじめいろいろおしゃべりして気を紛らわせてくれました。さらに、親切にも携帯電話をかしてくださり、無事ホストのSusanと話すことができました。空港には日本語教師のRuby先生が来てくださっていることを知り、私はBaggage Claim 7で待っていることを告げ、到着から2時間半後（！）、優しそうなRuby先生と、とてもキュートなChloeちゃん（1歳半のお嬢さん）に無事ピックアップしてもらうことができました。

北野生も無事ケントレイクのホストファミリーに引き継いでいただいたとの報告を受け、一安心。その足で日本食スーパーUWAJIMAYAへ。Ruby先生のご厚意で、初日の日本語クラスでおみそ汁、3日目の“After CBFパーティ”でおにぎりを作ることになっていて、そのための買い出しでした。買い物中も、ホストファミリーやケントウッド高校のミヤーン先生から、Ruby先生の携帯電話にひっきりなしにかかってきていました。その後もドライブしながらいろいろお話を聞かせていただきました。リーマンショック以降、予算カットなどもあり、非常勤という立場ながら、このプログラムのほぼ全てを一人で仕切ってくださっているとのこと。Ruby先生に本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。その夜、無事にホストファミリー（Susan、旦那さんのDoug・息子さんのRyan、Kyle、そして犬のJade）に会うことができました。とても素敵な家族でした。

初日からたくさんの人と出会いました。そして出会う人、出会う人、みんな震災について尋ねてくれ、そして本当に日本のことを心配してくれていました。

＊3月28日～初登校～

7：15に日本語クラス集合。北野生は1週間のアメリカ生活で少し疲れが出てきてはいたものの、とりあえず元気な様子に一安心。さっそくみんなで昨日買ったおみそ汁をいただきました。この日は日本語クラスが4時間あり、どのクラスでも北野生は自己紹介をしました。授業の途中で、ホストをしてくれている生徒が校内案内してくれました。陶芸、演劇、オーケストラなど日本では珍しいクラスも見学させてもらいました。

ランチタイムは教室でお弁当やカフェテリアで選んだものを運んできて賑やかにいただきました。お互いに顔と名前を一致させながら、一生懸命コミュニケーションをとろうとしていました。こういった様子をみていると、規模は小さい交換留学ですが、その意義は大きいのだなぁと感じました。

5時間目に受けた世界史では第一次～二次世界大戦を扱っていました。教科書を見ているとパールハーバー事件が1941年12月7日と載っていて、8日のはずでは？と不思議に思ったのですが謎はすぐに解決しました。終戦も1945年8月14日になっていたからです。時差だったのですね。

＊3月29日～2日目～

2日目は日本から準備していったプレゼンの日でした。WOOD校でも発表しているので生徒たちは慣れたもの。堂々と発表していました。着物、相撲、折り紙、アニメなど日本人が聞いても興味深い内容でした。浴衣を着せてあげたり、手裏剣を折ったり、『萌（もえ）～』の使い方もマスターしてもらったり、と楽しみながら交流ができていたのではないかと思います。

ランチタイムに校長先生にご挨拶に行きました。とてもお忙しい中、私たちが持参した学校アルバムを一ページずつ見ながら北野高校について興味を持って話を聞いてくださいました。

午後には生徒と一緒に陶芸・ダンスの授業にも参加してみました。陶芸はEric先生が手取り足取り優しく指導してくださいました。このクラスは毎年北野生がお世話になっているとのこと。日本語で挨拶してくださいました。ダンスのクラスは先生の指導で準備運動をした後は、代表の生徒たちが前にでて振り付けをしていきます。それを残りの生徒がコピーするという内容。今回はヒップホップ。どのクラスも半年間、毎日同じ授業を受けているので、なかなかレベルは高かったです。

＊3月30日～長い1日～

朝から阿武野生がやってきました。この日はランチタイムに、生徒が自国の文

化を紹介する日で（130以上もの国籍の生徒が在籍しています）、桜祭りで踊ったAKB48を再び全校生徒の前で踊りました。観客もいっぱい。

出番以外の時間は書道を披露。名前を漢字で書いてあげました。どの漢字にするかはなかなかセンスが必要です。スタッフの方々も列に並んでくださったのですが、「校長」が大人気。その後、各人の部屋の入り口に貼ってありました。こんなところにもユーモアのセンスが見られました。

このイベントは日本の震災チャリティ募金も兼ねてくれていました。ある生徒は「手持ちのお金を全て募金したから、お昼ご飯を買うお金がなくなっちゃって。」と笑顔で言っている姿に胸が熱くなる思いでした。

このイベントはすべて生徒会のはたらきによるもので、すばらしい統制力でした！

放課後はジャパンクラブで、桜祭りの打ち上げがありました。おにぎり50人以上分を用意したのですが、意外や意外。あっという間に完食。用意したふりかけは「ゆかり」や「ノリ玉」もあった中、「鮭」ふりかけが一番人気でした。

この日は長い一日で、夕方5～8時は保護者会でした。想像していたのとは違い、体育館に100人以上の教師がブースを構えていて、そこに約2700人の保護者や生徒が随時やってくる大規模な形式。日本はクラス担任と個人懇談をする形式ですが、こちらは生徒が選択してる教科の担当者のブースをそれぞれ各人が訪れます。

私はステイ先のSusan（英語教師）のブースに隣席させてもらいました。相談内容はどの国も同じなんだなあと実感。Kids are kids！ ただ、国籍、母語、教育熱が保護者によって異なるのでその対応は大変そうでした。

＊3月31日～4日目～

この時期は学期末ということで、大概のクラスではレポート作成の準備（個人作業）に取り組んでいて、通常の授業形態を見れなかったのが少し残念でした。日本語クラスではオーラルテストが行われていたので見学させてもらいました。1・2年生のクラスは『～しないでください』のフレーズをたくさん使ったグループ寸劇、3・4年生のクラスは二人組でインタビュー形式の寸劇でした。寸劇の内容や発音・抑揚など、簡単なようで難しく、おそらく日本人が話す英語もこんなふうに聞こえているのではないかと想像してみたりしました。

3時間目に見学させてもらったマーケティングのクラスもレポート作成中でした。テーマは自分で1つ企業を決め、自分がそこの新人教育係だったらどういう新人教育プログラムを提案するか？といったものでした。まず企業理念を考え、次にセ

クシャルハラスメント対策（ここがアメリカらしいと思いました）、そして商品開発や営業のノウハウ…といった具合に企画案を作っていました。5時間目に見学した自動車整備のクラスは本当に本格的で、各グループに1台ずつ車が与えられ、実際にオイル交換を行っていました。専門学校のような授業もあることにびっくりしました。

＊4月1日～登校最終日～

あっという間の1週間だったのでしょう。生徒たちは朝からプレゼント交換。後の黒板にメッセージやイラストを書いたり。私は2時間目はスペイン語のクラスを見学に。ダンスのクラスで教えてらした先生だったのでびっくり。とってもエキゾチックで美人な先生でした。残念ながらこちらもレポート作成の時間でした。3時間目はマーケティングのクラスを見学。マーケティングは3つのコースがあって昨日見学したクラスは理論のクラス。今日はSTUDENT STOREでの実技を見学。ちょうどランチタイムの準備中。店は授業の一環で全て生徒が運営しています。

身体・知的支援コースの生徒たちが卒業後ファーストフード店ですぐに働けるように、在校中に資格がとれるのがこのクラス。それをサポートするのも、メインは学生です。メニューも豊富で、焼きたてのクッキーがとてもいい匂いで思わずお腹がなってしまいました。3枚で$1はお買い得。よく売れていました。

4時間目は家庭科クラスへ。トルティーヤスープを調理するとのことで急遽参加させてもらうことに。とてもおいしくできて、みんな笑顔で“Yummy!”その他、物理や数学も、実験中心だったり実生活に即した授業が多いように感じられました。

5時間目は日本語教室で書道。最後にプレゼントするつもりなのでしょう。時間がくるまで何度も何度も書き直していました。

最終日も無事終了。家に帰ったらDoug（旦那さん）がベッドサイドに花束をプレゼントしてくれていたのにはすごく感動しました。

＊4月2日

帰国の朝。ゆっくり起床。Dougがコーヒーをいれてくれ、音楽をかけてくれました。思い出に一緒に写真をとったり、手づくりの朝ごはんたべたり（ステイ中は毎朝早いので、スターバックスでドライブスルーでした）。いろいろ話をしてると、あっという間に空港に行く時間になってしまいました。空港で生徒は涙・涙のお別れ会。Woodの生徒も来てくれたものだから、さらに涙。お別れの時間はいつもつらいものです。

荷造りの段階で心配していた荷物は、やはりoverweightでした。追加料金はなんと＄50（¥4200）。でも全部必要なものだししかたないと泣く泣く支払いました。飛行機で宮城上空を通過するとき、津波の被害にあった辺りだけが本当に土だけになっているのが見え、改めて自然の恐ろしさと被害にあわれた方々のことを思い胸が痛くなりました。11時間強のフライト、無事ランディング。

1週間でしたが、たくさんの出会いと充実した非日常生活を送れたことに感謝。みんな無事に帰国できてよかったです。今回の旅は引率という立場でしたが、新しい人との出会い、いろんな方々の親切・優しさに触れる旅となりました。ホストのSusanのホスピタリティーのおかげでプライベートでもいい経験がたくさんできました。ホテルではなくホームステイということで、子供のしつけ、共働きの生活洋式など垣間見ることができたのもよかったです。北野高校の国際交流担当の先生方、事務・同窓会の方々、空港に迎えに来てくださった教頭先生、濱野先生、ありがとうございました。